

事務事業マネジメントシート(平成24年度実績と平成25年度計画)

平成26年 1月22日更新

事務事業名		社会教育指導員配置事業				☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連				
総合計画体系	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり				所属部	教育委員会事務局	課長名	上原 哲也
	施策	21	生涯学習の推進				所属課	生涯学習課	担当者名	上村 祐一郎
	基本事業	66	学習の啓発				所属班	生涯学習班	(内線)	1504
予算科目		会計一般	款10	項5	目1	事業連番10767	法令根拠	合志市社会教育指導員設置規則		成果優先度評価結果 : ⑩ コスト削減優先度評価結果 : ⑥
終了、開始年度		☐ 24年度で終了 ☐ 24年度から開始				事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 18 年度) ☐ 期間限定複数年度 (~ 年度)			

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】 (開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む)	社会教育を推進するため、社会教育指導員2名を配置する。①旧合志町に昭和50年8月、旧西合志町は昭和48年7月に社会教育の指導、相談を受け持つため、各町に1名配置された。②平成18年2月に両町合併後、旧町で推進方法の異なる生涯学習の指導、相談のため2名配置となった。合併前、旧両町とも急激に人口が増加し、生涯学習の充実を求める住民ニーズは増大していった。このため各町とも拠点となる施設を整備し、活発に生涯学習活動が行われることになった。近年は次第に高齢化が進み、リタイヤ世代の生涯学習活動が活発になり、この世代のニーズを取り入れた内容を充実していく状況となった。
【業務の流れ】	社会教育の推進を図るため、各コミュニティ及び中央公民館への指導及び助言を行う。また、成人教育、青少年教育、家庭教育に関して指導を行う。
【主な予算費目】	報酬
【意見や要望】 関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	住民からは、子どもへの伝承活動や家庭教育に関する活動を充実させるよう、意見が出ている。

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分	
①手段(主な活動) 24年度実績(24年度に行った主な活動)(DO)		25年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN)	
本市生涯学習の拠点2施設(ヴィーブル・御代志市民センター)に各1名配置。②各指導員は、各コミュニティ、中央公民館への指導及び助言を行う。また成人教育、青少年教育、家庭教育に関して指導を行った。		①本市生涯学習の拠点2施設(ヴィーブル・御代志市民センター)に各1名配置し、効率的に運用する。 ②各指導員は、各コミュニティ、中央公民館への指導及び助言を行う。また成人教育、青少年教育、家庭教育に関して指導を行う。	
①活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由	
→ ア: 指導助言のための勤務日数	日		
イ			
②対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	(単位)	②対象指標(対象の大きさを表す指標)	
市民(生涯学習事業参加者)	人	→ ア: 人口	人
		→ イ	
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	(単位)	③成果指標(意図の達成度を表す指標)	
よりよい生涯学習活動を市民が行えるようにする	%	→ ア: 学習に取り組んでいないが今後取り組んでみたいと思う市民の割合	%
		→ イ	
*③成果指標設定の理由と25年度目標値設定の根拠 より生涯学習活動を市民が行えるように推進するために設定した。			総トータルコスト 全体計画 ~ 年度 0

(2) 各指標・総事業費の推移		単位	22年度 実績(決算)	23年度 実績(決算)	24年度 目標(当初予算)	24年度 実績(決算)	25年度 目標(当初予算)	26年度 予定	27年度 見込	28年度 見込
① 活動指標	ア	日	422	422	422	422	422	422	422	422
	イ									
② 対象指標	ア	人	55,828	56,667	56,222	57,501	56,693	57,164	57,635	58,000
	イ									
③ 成果指標	ア	%	56	58.3	60	55.5	62	64	66	0
	イ									
投 入 費 用	財 源	国庫支出金	千円							
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円							
		繰入金	千円							
		一般財源	千円	2,052	2,052	2,052	2,052	2,052	2,052	2,052
	人 件 費	(A) 事業費計	千円	2,052	2,052	2,052	2,052	2,052	2,052	2,052
		(A)のうち指定経費	千円	2,052	2,052	2,052	2,052	2,052	2,052	2,052
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0
		正職員従事人数	人	0	1	1	2	1	1	1
トータルコスト(A)+(B)	延べ業務時間		時間	0	15	10	20	15	15	15
	(B) 人件費計		千円	0	60	40	81	60	60	60
	トータルコスト(A)+(B)		千円	2,052	2,112	2,092	2,133	2,112	2,112	2,112

事務事業名	社会教育指導員配置事業	所属部	教育委員会事務局	所属課	生涯学習課
-------	-------------	-----	----------	-----	-------

2 評価の部（SEE）

*原則は24年度的事後評価、ただし複数年度事業は24年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①24年度目標達成度評価 事務事業の当年度実績は当年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	☒ 達成した ☐ 達成しなかった ⇒【原因】
	②25年度目標達成見込み 事務事業の次年度目標値に対して次年度の見込みはついているのか？	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 ☐ 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 本年度は、指導員配置替えにより、より効率的運用を図るため。
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになってないか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由】 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】 合併前、両町の生涯学習活動は、それぞれの歴史伝統があり、そのもとで行われてきた。合併後も、急激な同一化は困難と思われるが、次第に一本化に向かう過程で指導員の2名配置を見直すことが可能である。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☒ 他に手段がある⇒（具体的な手段、事務事業） ☐ 他に手段がない ⇒【理由】 ☒ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 旧両町の生涯学習推進の方策が一本化できれば、2人配置を見直すことが可能かと思われる。
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？（仕様や工法の適正化、住民の協力など）	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 事業費は非常勤職員の人件費のみであるため、削減は困難である。
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？（アウトソーシングなど）	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 非常勤職員により事業を行っており、人件費も必要最小限であるため、削減は困難である。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 社会教育指導員は市民全体の利益のため業務を行っており、公平公正を旨としている。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化 事業事務のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行できないか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】 企画立案に参加し、知の循環社会を目指すための指導者であり、適正である。

3 評価結果の総括（SEE） ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

社会教育、生涯学習推進のための事業関連に参画し、問題なく事業効果を得られた。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（PLAN）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可 ☐廃止 ☐休止 ☐目的再設定 ☐事業統廃合・連携 ☐事業のやり方改善（有効性改善） ☐事業のやり方改善（効率性改善） ☐事業のやり方改善（公平性改善） ☒現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）			(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">コスト</td></tr><tr><td>削減</td><td>維持</td><td>増加</td></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>					コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
		コスト																								
		削減	維持	増加																						
成果	向上																									
	維持																									
	低下																									
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策																										